日本英語教育史学会 会報
315

2023 年 6 月 25 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan
日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人　日本英語教育史学会（代表：田邉祐司）

事務局　〒727-0023　広島県庄原市七塚町 5562
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
tel：0824-74-1727　fax：0824-74-0191
e-mail：membership@hiset.jp

会費納入口座（名義人：日本英語教育史学会）
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第39回全国大会報告

2023（令和 5）年 5 月 20 日（土）・21 日（日），第 39 回全国大会が神奈川大学での対面と Zoom を用いたハイブリットの形態により開催されました。初日は中島平三氏（東京都立大学名誉教授・日本英語学会元会長）による「梯子を外される前に英語教育史を」と題する講演，及び 2 本の研究発表が行われました。第二日は 8 本の研究発表が行われ，2 日間で 83 名の参加がありました。ご参加いただいた皆様，関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。以下に出席者の感想を掲載しますのでご参照ください。なお，写真は対面で参加された発表者のもののみ掲示しております。

＜講演の感想＞

◆講演内容に強く共感し，感動しました。頭の中でもやもやしていた諸点について，中島先生が見事に言語化してくださり，霧が晴れた気分です。拙著にも言及してくださり，ありがとうございました。英語学の専門家であられる中島先生が，英語教育の目的論の重要性を前面に出され，デジタル・AI時代には外在的知識の必要性が相対的に低下し，スキル主義を超えて，内在的知識（知識を中心とした人間の本性）を伸ばすことの重要性をご指摘されたことに特に感銘を受けました。AI時代の外国語教育目的論について，今後さらに深く考えたいと思います。

＜みかん舟＞

◆知性を育てる，それには文法が役立つ，というお話を聞き，生徒が知的存在であること，生徒の知性を信じる大切さなどをあらためて認識しました。私にとって，中島先生のお話を聞くことは，「英語教授でなく，英語「教育」だ」と説く岡倉由三郎先生に会うようなものです。ありがとうございます。　＜匿名希望＞

◆先生のお考え，ご研究に，大変感銘いたしました。「現代外国語教育はそれ自体が目的ではなく，その文化的及び人間的側面によって，学習者の精神と人格を鍛錬し，より良い国際理解と，民族間の平和的で友好的な協力関係の確立に貢献すべきである。」心に響きました。

＜山崎千春＞

◆過去を振り返り，現在，そして近未来の英語教育の諸問題を模索するステップとなるご講演でした。学ぶことが多くある有意義なご講演でした。ありがとうございました。　＜ニーナ＞

中島 平三 氏

溝口 悦子 氏

鈴木 聡 氏

二五 義博 氏

研究発表タイトル・発表者一覧

発表 1:「外客接遇職業人」はどのように英語会話を学んだか：明治末期から昭和戦前期の場合
溝口悦子（早稲田大学）

発表 2: 東京高等師範学校卒業生と東京第一臨時教員養成所英語科学生（大正 13 年，15 年，昭和 2 年，3 年，5 年，6 年卒）の給費・私費割合及び進路先及び就職後の動向（昭和 8 年時点での各年度卒業生の進路先の変化）及び昭和恐慌時期の卒業生の進路の変化について
鈴木 聡（鳥羽商船高等専門学校）

発表 3: 戦前の中学校英語教科書における教科横断的要素について
二五 義博（山口学芸大学）

発表 4: 歴史から見る日本におけるフォニックス指導の可能性
平賀 優子（東京大学）

発表 5: 佐川春水の英作文講義：「氷壁」
森 悟（日本英語教育史学会・日本英学史学会）

発表 6:「高等学校学習指導要領」における「コミュニケーション」の変遷に関する一考察
小林 大介（静岡市立高等学校）

発表 7: 英語教育政策に関する事例研究：スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールを題材に
松岡 翼（和歌山大学大学院修了生）

発表 8: 公立高校入試への民間検定試験導入：その経緯・実施方法・出題内容の検証
久保野 雅史（神奈川大学）

発表 9: 『英語の研究と教授』と広島版『英語教育』の計量的分析
上野 舞斗（四天王寺大学）

発表 10: 雑誌『語学教育』（1942～1972）の包括的研究
江利川 春雄（和歌山大学名誉教授）・河村 和也（県立広島大学）

◆英語教育について，教養vs実用という対立的な捉え方から脱却して，教育の本来的意味である知性を磨くという観点から考えることの重要性を，中島平三先生のご講演からよく理解でき，大変勉強になりました。また，対面で参加させていただきましたため，ご講演後の質疑についても臨場感をもって伺うことができました。ハイブリットで開催してくださいまして，誠にありがとうございました。
＜櫻井千佳子＞

平賀 優子 氏

森 悟 氏

小林 大介 氏

久保野 雅史 氏

◆本日はありがとうございました。英語教育の意義を改めて考えることができました。先生のお言葉を胸に刻んでこどもたちにも伝えていきたいです。　＜堀由紀＞

◆たいへん刺激的なお話しで，たくさんメモを取ることができました。　＜匿名希望＞

◆とても参考になりました。探求型の発想はとても面白かったです。　＜鈴木聡＞

◆正直，講演を聴く前に昼食を食べてしまったこともあり，寝てしまったら申し訳ないなと考えていました。しかし，実際に講演を聴き始めるととても興味深い内容だったため，聞き入ってしまいました。自分がもともと研究したいと考えていた分野でしたので今後の自分の研究にも活用したいと思っています。　＜匿名希望＞

◆ハンドアウトの最後にあった「温故開来」は言い得て妙だと思いました。まさに英語教育における英語教育史の意図づけを表すのに相応しい言葉です。この言葉を胸に日頃の教育活動や研究に励んでいこうと思いました。また，質疑応答での中島先生と大津先生のやりとり内容とその空気感は対面の学会のあるべき姿を示していたように思い，その場に立ち会えて幸運だったと思っています。貴重な時間をありがとうございました。　＜Koyamamoto＞

◆英語教育の新たな目的を長期思考で考え，内在的知識を身につけることが重要であるというお言葉は，探求型学習(文法教育)がなぜ最適なのか明確に理解できました。　＜匿名希望＞

＜発表 1 の感想＞

◆明快なプレゼンで，未知なる領域についての新たな知見を得ることができました。今後，さらに英語指導内容の実態に迫られることを期待しています。　＜みかん舟＞

◆経歴（学歴）による分類に興味を持ちました。また，試験の合格が一部ではステイタス証明としても機能し，それを目指して受験していた人もいた，というご指摘も興味深く，より深くお聞きをしたかった次第です。次回のご報告を楽しみにしております。　＜まご＞

◆大変興味深いご発表でした。ありがとうございました。ご発表の「まとめ」内にある，（2）…特徴の②にある，「外客の実際的なニーズ」とありますが，「実際的な」の例を知りたいと思いました。現在と当時との実際的なものは，とりまく環境も異なるため違うのでは，と考えたためです。　＜山崎千春＞

◆大変聞きやすく，わかりやすいご発表でした。今ほど情報のない時代に，どんな教材で学んだかを次回ぜひお伺いしたいです。　＜堀由紀＞

◆丁寧な発表でびっくりしました。また，これまで知らなかった外客接遇職業人についての考

上野 舞斗 氏

河村 和也 氏

察はとても新鮮でした。ありがとうございました。　＜鈴木聡＞

◆お恥ずかしながら「外客接遇職業人」という言葉を今回の発表を通じて知りました。勉強不足だとは思いますが，新しい知識を詳細な資料とともに得られるのもこの学会の魅力の１つだと思っています。ありがとうございました。

＜Koyamamoto＞

＜発表 2 の感想＞

◆中等英語教員の教育社会学的なご研究で，新たな知見を多く提示いただき，とても学びの多いご研究でした。特に臨時教員養成所出身者への「偏見」を払拭したいという熱い思いを感じました。ご研究を集大成されて，本にされることを願っています。　＜みかん舟＞

◆教育社会学的な視点から英語教育の事象に接近する点が興味深く感じられました。資料の収集法やデータの整理法（表の見方，今回の分類の仕方）等々，技術的なことに関して，もう少しお聞きしたかった次第です。次回のご報告を楽しみにしております。　＜まご＞

◆大変興味深いご発表でした。ありがとうございました。多くの資料から当時の状況を知ることができ，さらにはご祖父様のお話から始まったご研究と伺い，感動致しました。＜山崎千春＞

◆先生がなぜこちらのご研究をされたのかという貴重なお話しまで伺えましてありがとうございました。　＜堀由紀＞

◆スライドが思っていたよりも早く飛んでしまったのできちんとお話しできたか不安でしたが，発表賞という思いがけない評価をいただきありがとうございました。今後とも精進していきたいと思います。　＜鈴木聡＞

◆どの時代においても教員採用やその質は社会の情勢の影響を強く受けることを歴史的な観点から再確認することができました。小川芳男は女学校教諭時代から優秀であったとは思いますが，その小川が約５年間昇給なしだったというのは衝撃でした。ありがとうございました。

＜Koyamamoto＞

＜発表 3 の感想＞

◆英語で歴史，地理，数学などを教えた英学時代の教科書や，工業，商業などの実業学校の教科書などへと分析対象を広げられると，CLIL 研究の新たな地平が拓けるのではないかと思いました。　＜みかん舟＞

◆今でいう CLIL は，昔からあり，工夫のある教科書だったということを知ることができました。昔の教科書の方がいまよりも横断していたのかもと思いました。ありがとうございました。

＜堀由紀＞

◆具体的な例をあげて下さり，勉強になりました。　＜匿名希望＞

◆質疑応答にもありましたが，やはり CLIL の定義，ないしは「CLIL 的」が表す範疇がどこま

でを指すのか気になりました。現在の検定教科書に置き換えた場合にどこまでが CLIL 的に該当するのか。その線引きがこの研究において最も難しく同時に最も重要な点だと思いました。ありがとうございました。　＜Koyamamoto＞

＜発表 4 の感想＞

◆日本語の音，英語の音の話しが大変興味深かったです。　＜堀由紀＞
◆過去から現在への様子がよくわかりました。　＜匿名希望＞
◆松香洋子先生へのインタビュー内容が大変印象的でした。松香先生でもフォニックスを日本に導入，指導するにあたり，思ったようにはいかないこともあったことが伺え，改めて日本での英語音声教育の難しさを感じました。ありがとうございました。　＜Koyamamoto＞

＜発表 5 の感想＞

◆内容も素晴らしかったですが，森先生の語り口の見事さ（ほとんど芸術的）に感動しました。研究対象への愛情と魂がこもっていると思いました。　＜みかん舟＞
◆大変刺激的で感動いたしました。佐川春水先生のすごさがよくわかりました。＜匿名希望＞
◆いつもながら森先生のご発表は内容もさることながらその伝え方に魅了されてしまいます。まるでテレビ番組の 1 つを見ているような感覚になり，終始，楽しみながら聞かせていただきました。晩年の春水をもってしても常に試行錯誤を繰り返す姿が浮かび，教育者としての原点を垣間見たように思います。ありがとうございました。　＜Koyamamoto＞

＜発表 6 の感想＞

◆文科省が実にいいかげんに「コミュニケーション」という用語を使っていることを実証され，ますますこの国の英語教育政策のお粗末さに怒りがわきました。　＜みかん舟＞
◆学習指導要領を振り返ることにより，そこでどのような「用語・特定表現」が使われているかを見直す今回のご発表で，変遷が分かりとても興味深く拝聴いたしました。指導要領の項目など質的分析を加えるとさらに研究に深みが加えられると思いました。　＜ニーナ＞
◆とても興味のあるテーマでしたので，とても勉強になりました。　＜匿名希望＞

＜発表 7 の感想＞

◆教育政策の検証は重要なのに，なかなか十分になされていません。 貴重な発表ありがとうございます。　＜匿名希望＞
◆面白く拝聴しました。英語教育重点校である SELHi の歴史的な位置を明らかにするために，今後，特定の生徒に英語の集中訓練を行うとした平泉プラン（1974）や平泉新提案（1978），さらに「学習者の多様な能力・進路に適応した教育内容や方法の見直し」を主張し「一定期間集中的な学習を課すなど教育方法の改善」を訴えた臨教審答申（1986）などとの関連を考察されると深みが増すと思いました。　＜みかん舟＞
◆SELHi が実施されて 20 年，終了して 10 年で今，その検証をするときなのかと改めて思いました。政策を検証するのはなかなか難しいものではありますが，これからのさらなる分析を楽

しみにしております。　＜ニーナ＞
◆私もかつてそうしたことをやっている高校に勤めておりましたので，興味深く聞かせていただきましたが，その当時は学校の業務が増えて，本当に忙しく，辛い時もありました。教員の負担がとても大きかったです。　＜匿名希望＞
◆質疑応答の中でもありましたが，SELHi（あるいはSGH）指定校の職員がどのような思いで関係業務（申請から指定終了まで）に臨んでいたかが大変気になりました。と言いますのも現在の勤務校はこれまでにSSHに２期にわたって指定されており，現在３期目に向けて準備中です。おそらくは指定校の職員でしか語れないような歴史的事実もあると思います。今後の調査等でその辺りに触れていただければ幸いです。ありがとうございました。　＜Koyamamoto＞

＜発表８の感想＞

◆短い時間に重要な事実をしっかり発表していただき，大変役立ちました。　＜匿名希望＞
◆都教委の理不尽きわまりない政策への怒りが伝わってきて，大いに共感しました。エビデンスも豊富に提示され，説得力がありました。　＜みかん舟＞
◆教育利権が教育を脅かしている実例を示していただき，それが知らない間に進んでいるというまさに動かない壁を感じるご発表でした。言いにくいこともスパッと言ってのける先生の語り口調にも敬服いたしました。ありがとうございました。　＜ニーナ＞
◆一番，興味を持って聞かせていただきました。即刻，あのようなひどい試験はやめるべきです。志願するときに，個人情報も盗まれ，とんでもない民間試験です。即刻廃止してほしいです。
＜匿名希望＞
◆先生の最後のお言葉にもありましたが「対岸の火事」の認識ではいけないと思いました。様々な矛盾を含んだ取り組みだということはわかったのですが，気になったことが１つあります。実施が決定してからの中学生の英語学習に対する取り組みに変化はあったのでしょうか。試験方法は英語学習の方法に大きく影響するとしばし耳にしますが，この規模で実施されたのであれば少なからず影響はあったのか，それともあまり変化はなかったのか。またの機会に教えていただければ幸いです。ありがとうございました。　＜Koyamamoto＞

＜発表９の感想＞

◆上野先生のお話ぶりが明晰でとてもよくわかりました。　＜匿名希望＞
◆東西の研究誌の比較検討をという竹中龍範先生の課題提起をさっそく実行に移され，事実データに即して明快にプレゼンされた見事な研究発表でした。活字化を切に願います。
＜みかん舟＞
◆こうした研究は文献がないとどうにもならず，そうした本が入手できる方はいろいろと研究できて，うらやましく思って，聞かせていただきました。　＜匿名希望＞
◆上野先生の緻密かつ広範囲にわたる研究発表に毎度の事ながら感動しました。発行元・編集元やそのタイトルから私たちは恣意的に雑誌の性格をイメージ付けしてしまいがちですが，こうして計量的に示していただけると認識と事実の差に気がつくことができます。さらなる研究成果の発表を楽しみにしています。ありがとうございました。　＜Koyamamoto＞

＜発表 10 の感想＞

◆貴重な復刻，まことに大事なお仕事を成し遂げてくださいました。本大会に参加して本当に良かったです。このような機会がまたあればと思います。　＜匿名希望＞

◆英語教育史の中でも主要雑誌の研究はその時代的変遷を映し出しているばかりか，その雑誌の時代への影響も含めて大変興味深いものがあると改めて学びました。ありがとうございました。　＜ニーナ＞

◆ゆまに書房から『語学教育』が復刊されていますが，高価なので，買うことができません。ぜひ，読んでみたいのですが，高価すぎて手が出ないので残念です。やはり，こうした研究は，本がないと何もできませんね。　＜匿名希望＞

◆発表中に河村先生もおっしゃっていましたが語学教育研究所から 1 冊も借りず完全復刻を果たしたことに感銘を受けました。この学会にこれまで尽力されてきた諸先生方の偉大を再確認した次第です。私も学生時代にかつて会員だったこともあり，パーマーから今に至る 100 年に想いを馳せるきっかけとなりました。ありがとうございました。　＜Koyamamoto＞

＜大会全般の感想＞

◆ハイブリッド，本当に大変ですね。参加者としては，ありがたかったですが。お疲れ様でした。大会，大変勉強になりました。　＜匿名希望＞

◆参加させていただきまして，誠にありがとうございました。　＜山崎千春＞

◆円滑な運営を誠にありがとうございました。フロアのマイクによる発言が聴き取りにくかったのがやや残念でしたが，全体的には見事な運営でした。榎本先生，久保野先生をはじめ，関係各位に心より御礼を申し上げます。　＜みかん舟＞

◆4 部構成のプログラムの割り振りのすばらしさは，今回大会のご成功の大きな鍵の一つであると存じます。とても有意義な大会でした。ありがとうございました。それぞれの司会・進行をご担当の先生がたも素晴らしかったです。お世話してくださった会場の先生方，誠にお疲れ様でした。 今回は「テキストマイニング」をお使いになったご発表が多いと思いました。　＜ニーナ＞

◆ありがとうございました。大変有意義な時間となりました。　＜堀由紀＞

◆この度は，大学院生・学部生と共に参加させていただきまして，誠にありがとうございました。締切後の申込みとなり，大変お手数をおかけいたしまして申し訳ありません。快くご対応いただきました大会実行委員長の榎本剛士先生をはじめ，運営に関わられた皆様に御礼申し上げます。対面で参加をさせていただき，特に，学生にとって，貴重なときとなりました。学生は学問についてはまだ入り口におりますが，口々に，「やはり対面でご講演やご発表を伺うと，自分の頭がとても動いている気がする」と話しておりました。学生の参加費が無料というのも，昨今の学生の経済的な事情を考えますと，大変ありがたかったです。　＜櫻井千佳子＞

◆現役の高校教員の時は，あまり日本の過去の英語教育には興味がなかったのですが，定年後は，とてもそうしたことに興味が出てきて，この学会にも入らせていただきました。こうした研究は書籍がないとできないので，そこが一番，辛いところでして，毎回，発表をうかがいつつ，興味はあっても本が入手できないとどうにもならないと残念な気持ちになりながら，勉強させていただいております。　＜匿名希望＞

◆急遽戻ることになり 2 日目を欠席してしまい申し訳ありませんでした。大変失礼いたしました。今後ともよろしくお願いいたします。　＜鈴木聡＞

懇親会での一枚

第 39 回全国大会（神奈川大会）を終えて

大会実行委員長　榎本 剛士

コロナ禍の中，中止（2020 年 第 36 回）とオンライン開催（2021 年 第 37 回，2022 年 第 38 回）を余儀なくされた全国大会にいよいよ，「対面」が戻ってきました。オンラインも併用した「ハイフレックス」開催となった第 39 回全国大会には，対面・オンライン合わせて 80 件を上回る事前参加申込みを頂きました。会期中は，「対面でのご参加がもう少し多ければ」と思うところもありましたが，様々なご事情で会場に直接お越しになれない皆様を排除しない大会運営の大切さも，身に染みて感じました。

さて，今大会を振り返ると，「温故開来」という言葉が真っ先に思い浮かびます。「温故知新」と「継往開来」からくるこの言葉は，中島平三先生が記念講演の中で英語教育史研究に与えて下さったものです。本学会の本懐でもある「歴史に学ぶ」ことに，「今」に根ざした「批判精神」と「実践への意志」が加わったような「温故開来」という道標に，研究・教育の両面で多くの参加者がきっと勇気づけられたことと思います。先人の知恵や仕事に謙虚に学びつつも，懐古的にならず，変化を無暗に否定することもなく，置かれた時代の中で，常に本質を見据える努力をしながらもがくしかない。記念講演後は，どこか「地に足着いた」ような，落ち着いた気持ちになりました。

そして，10 件の研究発表も，教師，学習者，教授法，制度，政策，メディア，イデオロギー，政治など，日本の英語教育史の様々な側面を幅広くカバーするものでした。全体として，歴史の中で，立体的な英語教育像が浮かび上がってくるような感覚を覚えました。日本の英語教育を真剣に考えようとする時，程度の差はあれ，何らかの形で「英語教育史」を経由せざるを得ない，という想いを新たにしたところです。

最後になりましたが，歴史と未来が共存する「みなとみらい」での大会の実現に向けて多大なご

尽力を頂いたもう一人の大会実行委員長（兼開催校担当）である久保野雅史先生，企画・運営の様々な局面で変わらないサポートを頂いた学会役員の先生方と運営補助の皆様，受付業務をお手伝い頂いた学生の皆様，そして，発表者として，オーディエンスとしてご参加頂いた皆様に厚く御礼を申し上げます。

全国大会でますます多くの発表が行われることを切に期待しながら，皆様にまたお目にかかれますことを願っております。

第39回全国大会関係各位への感謝

日本英語教育史学会会長　田邉 祐司

5月20日（土）～21日（日）の両日にわたって開催された，日本英語教育史学会第39回全国大会（神奈川大会）を恙無く終えることができましたことをお礼申し上げます。

本大会においてもハイフレックス形式をとりましたが，対面（発信）会場の神奈川大学の小熊誠学長，佐藤裕美学外国語学部長には，地上100m，21階建ての美しい校舎を使用させていただき，心より感謝いたします。かつて外国人居留地があった山下地区，山手地区とは目と鼻の先で，日本の英学，英語教育にとっての「聖地」で開催できたことは本学会にとって何よりの喜びでした。

記念講演では，東京都立大学名誉教授，学習院大学元教授の中島平三先生をお迎えし，「梯子を外される前に英語教育史を」というタイトルのもと，本学会の趣旨に寄せられた内容のお話を頂戴することができました。申すまでもなく先生は英語学の泰斗でありますが，近年は文法事項を教材にして，気づきや考える力を培う「斜めからの学校英文法」を提唱されており，ご講演ではそのお考えを日本の英語教育の変遷に絡められて発表され，聴衆に深い感銘を与えられました。

研究発表は2日間で計10件あり，どれも歴史的見地からわが国の英語教育の変遷を論じた知的刺戟に満ちたものでした。新たな学期がはじまった時期に発表の準備に勤しまれた発表者に感謝申し上げます。「大会発表賞」は鳥羽商船高等専門学校の鈴木聡先生が受賞されました。

その他，本大会に向けて数ヶ月前から準備に腐心された実行委員長の榎本剛士先生，久保野雅史先生，拝田清先生，進行役を務めていただいた先生方，会計監査の先生方など，みなさまの協力なしには円滑な運営はかなわなかったことを実感しております。また，拝田先生の教え子のみなさんには受付，マイク係などに従事していただきました。さらに事務局の河村和也先生にはまさに縁の下の働きで本大会を動かしていただきました。先生なしには大会が（いや学会そのものも）回らないことを実感しております。

もう一言だけ個人的なことを添えさせていただきますと，オンライン参加の方々には申し訳ありませんが，英学・英語教育発祥地である横浜に身を置きますと，そこに流れるもの—言葉ではうまく表現できません—「空気」のようなものを確かに感じることができました。

英文学者，エッセイストとして活躍され，2020年に他界された外山滋比古先生はその著『空気の教育』（筑摩書房）において「教育のことを薫陶という。これはまさに空気による育成を意味する。家庭には家風，学校には校風があることを考えてみよう。人間が生活しているところにはやがて，一定の空気，雰囲気が生じる。本当の教育は押し付けや口先だけの注意ではない，子どもを包む家庭や学校の空気こそ，最も深いところに作用する。」と述べておられました。

学会という一時（いっとき）の集会にも「空気」は存在しました。こうした胸いっぱい吸い込ま

れた「空気」がみなさまの最も深いところに作用したことを確信しております。ありがとうございました。

〉〉事務局より

〉〉2023年度 会員総会 報告

2023年度の会員総会は，全国大会初日の5月20日（土），開会行事に引き続き神奈川大学みなとみらいキャンパス米田吉盛記念ホールで開催されました。理事で大会実行委員長の榎本剛士氏（大阪大学）の司会で始まった会は，最初に鈴木聡氏（鳥羽商船高等専門学校）を議長に選出し，以下の議事を進行しました。

○ 活動報告・会計報告

活動報告・会計報告の内容は別掲の通りです。総会では，事務局長の河村和也（県立広島大学）による両報告に続き，安部規子氏（元久留米工業高等専門学校）より会計監査報告を受け，2022年度の会計報告については承認されました。

○ 役員選出

任期満了にともなう会長の選出については，締め切りまでに以下の立候補のあったことが，選挙管理を担当した事務局より報告されました。

会長候補：田邉祐司氏（専修大学）

総会では，田邉氏を会長として選出し，役員の新体制については新会長に一任しました。

2022年度活動報告 ----------

1. 全国大会・研究例会について

1-1. 第38回全国大会を2022年5月14日・15日にオンラインで開催した。

記念講演は田崎清忠氏（横浜国立大学名誉教授）にお願いした。講演の記録動画をYouTubeを通じて限定公開したところ，70名（会員5名，非会員65名）から視聴の申し込みがあり，再生回数は133回を数えた。

研究発表は8件で，大会発表賞は柾木貴之氏（北海学園大学）に贈られた。

1-2. 5月を除く奇数月に以下の研究例会をいずれもオンラインで開催した。

・第288回研究例会(2022年7月16日)
・第289回研究例会(2022年9月17日)
・第290回研究例会(2022年11月19日)
・第291回研究例会(2023年1月7日)
・第292回研究例会(2023年3月18日)

＊全国大会・研究例会の詳細は『日本英語教育史研究』第38号を参照されたい。

2. 学会誌について

2022年5月，学会誌『日本英語教育史研究』第37号を刊行し，前年度までの会費を納入済みの会員に送付した。

2022年度会計報告 ----------

2022（令和 4）年度　日本英語教育史学会収支決算報告

2022(令和 4)年 4 月 1 日 ～ 2023(令和 5)年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
繰越金	1,541,828	月報関係費	41,362
学会費	488,000	事務活動費	139,763
紀要代金	0	大会補助費	50,000
広告代金	0	紀要経費	313,900
雑収入	0	雑費	1,587
寄付・補助金	0	支出合計	546,612
収入合計	2,029,828	繰越金	1,483,216

以上相違ありません。

2023 年 5 月 2 日

事務局会計 河村 和也　印

会計監査 平賀 優子　印

同　安部 規子　印

〉〉2022年度第3回理事会報告

2023年度全国大会・会員総会の開催に先立ち，2022年度の第3回理事会が以下の通り開催されました。

日　時：2023年5月20日(土)　12:00～12:30

会　場：神奈川大学みなとみらいキャンパス米田吉盛記念ホール（Zoom併用）

議　事：

・会員総会の進行次第について

・授賞式の進行次第について

・その他

〉〉2023年度 日本英語教育史学会賞について

2023年度の日本英語教育史学会賞については，受賞に該当する方はいらっしゃいませんでした。

〉〉2023年度 日本英語教育史学会著作賞について

全国大会初日の授賞式において，2023年度の日本英語教育史学会著作賞は以下のお二人に贈られることが発表されました。著作の詳細と受賞理由は別掲の通りです。

下 絵津子氏（近畿大学総合社会学部）
広川 由子氏（千葉県立保健医療大学）

著作者名：　下 絵津子
書　　名：『多言語教育に揺れる近代日本 ―「一外国語主義」浸透の歴史』
出版社名：　東進堂
発 行 日：　2022年2月25日
授賞理由：

本書は明治・大正期から現在に至る「一外国語主義」の成立過程を実証的に解明した，極めて優れた研究書である。官報をはじめとする当時の資料を掘り起こし，全国中学校長会議，高等教育会議，教育調査会における議論を丹念に辿ることにより，英語完全一本化には至らず，関連法規上の教科名が「外国語」となった背景が明らかにされていく。当時から英語中心の外国語教育でありながらも，英語以外の外国語を推進する動きが繰り返されたことは，今日に重なるものである。こうした歴史的な経緯を明らかにした本研究は高く評価されるものであり，その貢献に対し，著作賞を贈る。

著作者名：　広川 由子
書　　名：『戦後期日本の英語教育とアメリカ ― 新制中学校の外国語科の成立』
出版社名：　大修館書店
発 行 日：　2022年3月20日
授賞理由：

本書は占領期におけるアメリカの対日英語教育構想の起源，新制中学校への外国語科の導入過程，講和後のアメリカ対日英語教育振興策の成立過程を実証的に解明した卓越した研究である。とりわけ，従来の日本英語教育史研究では手付かずだったアメリカ側の一次資料を，米国での調査も交えて広範かつ綿密に分析することによって，英語教育改革におけるアメリカの主導性を実証したことは，研究史を塗り替える画期的な業績として高く評価できる。今後，さらに研究範囲を拡げられ，その実力を遺憾なく発揮されることを期待して著作賞を授与する。

〉〉2023年度 日本英語教育史学会大会発表賞について

第39回全国大会（2023年度）における研究発表を対象とする大会発表賞は，鈴木聡氏（鳥羽商船高等専門学校）に贈られました。

《発表題目》東京高等師範学校卒業生と東京第一臨時教員養成所英語科学生（大正 13 年，15 年，昭和 2 年，3 年，5 年，6 年卒）の給費・私費割合及び進路先及び就職後の動

向（昭和 8 年時点での各年度卒業生の進路先の変化）及び昭和恐慌時期の卒業生の進路の変化について

〉〉学会誌『日本英語教育史研究』第 38 号の送付について

新しい学会誌を 5 月 26 日に発送いたしました。会費納入をお願いする文書（「紀要の送付と年会費の納入について」）を同封いたしましたところ，すでに多くの方にご対応いただいております。この場をお借りして，ご協力に感謝申し上げます。

発送日までに今年度分をお納めくださったみなさまには，納入日を記した文書（「会費紀要の送付について」）を同封いたしましたので，どうぞご確認ください。

１年もしくは２年分の会費が未納の方には，学会誌はお送りせず，この会報の発行時期に合わせて「会員継続のご案内」をお送りいたします。ご確認のうえ，よろしくご対応くださいますようお願い申し上げます。

会費納入に期限は設けておりませんが，事務作業の都合上，7 月末をめどとしていただければ幸いに存じます。

〉〉年会費の納入について

年会費は以下の通りです。今一度ご確認くださいますようお願いいたします。なお，学生会員は初年度の会費が免除されます。

【 年 会 費 】　一般：5,000 円　／　学生：3,000 円（大学院生を含む）

年会費は以下の口座にご送金ください。口座名義は「日本英語教育史学会」です。恐れ入りますが，手数料はご負担くださいますようお願いいたします。

⑴　① 郵便局で払込取扱票をご利用の場合
　　② ゆうちょ銀行の総合口座（旧ぱるる）よりご送金の場合
　　→　ゆうちょ銀行［振替口座］00150-3-132873
⑵　ゆうちょ銀行を除く金融機関の口座よりご送金の場合
　　→　ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店［当座口座］0132873

上に掲げた２つの口座は同一のものです。ゆうちょ銀行の「振替口座」は，ゆうちょ銀行以外の金融機関から送金する場合には「当座口座」の扱いとなり，支店名や口座番号が他の金融機関の形式に合わせたものとなります。

近年，払込取扱票によらずご送金くださる方が増えておりますので，これを同封するのを取り止めております。払込取扱票をご利用の場合，お手数ですが郵便局の窓口で「0」から始まる口座への送金とお伝えのうえお受け取りください。

〉〉会員動静

2023年5月31日現在の会員数は107名となっており，入退会の内訳は以下の通りです。

1. 2023 年度中の入会者：9 名
2. 2023 年 4 月 1 日から 5 月 31 までの入会者：4 名
3. 2022 年度中の退会者：7 名
   （ご逝去によるもの=1 名，お申し出によるもの=3 名，連絡不能によるもの=3 名）

会の創設以来の会員で，長く評議員をお務めいただいていた今野鉄男氏が，お身体の調子を崩されたとのことで退会をお申し出になりました。福島県南相馬市にお住まいでしたが，お元気な頃には東京での研究例会に毎月のように参加され精力的に発表もされました。ご快復をお念じ申し上げております。

2022年12月18日，相川真佐夫氏が急逝されました。お勤め先の京都外国語大学では役職に就かれるなど，まさにご活躍のさなかのことでした。京都での研究例会に大学コンソーシアム京都の施設をお世話くださるなど，会の運営にすすんでご協力いただいたことを特記して感謝申し上げるとともに，衷心よりお悔やみ申し上げます。

（文責：事務局）

『日本英語教育史研究』第 39 号 投稿論文の募集

2024 年 5 月に刊行予定の研究紀要『日本英語教育史研究』第 39 号への投稿論文を募集します。投稿締切は 9 月 30 日（土）23:59 JST です。投稿規程・標準書式に沿ってご投稿ください。

投稿先・問合せ先（紀要編集委員会）　kiyo@hiset.jp

【速報】 役員の新体制が発足

今年度の会員総会で役員の新体制については新会長に一任されていましたが、田邉会長より示された人事案を承認するための理事会を以下の通り開催しました。形式上、これが2022年度最後の理事会となります。

日　時：　2023年6月23日(金)　18:00～19:00
会　場：　オンライン（Zoom）
議　事：　役員体制について
　　その他

2022年度末をもって勇退された理事の榎本先生、藤本先生、会計監査の安部先生には、長きにわたりご尽力いただきましたことを特記し感謝申し上げます。

この理事会で承認され発足した役員の新体制は以下の通りです。理事に惟任先生（大阪成蹊大学）、幹事に熊谷先生（茨城大学）、吉村さん（和洋女子大学大学院生）、会計監査に平井先生（北里大学）をお迎えすることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

（文責：事務局）

2023～2024年度 日本英語教育史学会役員
（敬称略、五十音順、*は新任）

会長	田邉　祐司		
副会長	馬本　　勉	久保野雅史	
理事	上野　舞斗	河村　和也	*惟任　泰裕
	拝田　　清	若有　保彦	
事務局長	河村　和也		
幹事	*熊谷　允岐	小林　大介	孫工　季也
	*吉村　和也		
評議員	島岡　　丘	茂住　實男	
顧問	小篠　敏明	竹中　龍範	
名誉会長	江利川春雄		
会計監査	*平井　清子	平賀　優子	

〉〉この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 293 回研究例会　2023 年 7 月 15 日（土）　オンライン開催
- ◆ 第 294 回研究例会　2023 年 9 月 16 日（土）　オンライン開催
- ◆ 第 295 回研究例会　2023 年 11 月 18 日（土）　検討中
- ◆ 第 296 回研究例会　2024 年 1 月 20 日（土）　検討中
- ◆ 第 297 回研究例会　2024 年 3 月 16 日（土）　検討中

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は，(1) 発表希望月，(2) タイトル，(3) 発表概要（100～200 字程度），(4) 使用予定機器，の 4 点を明記の上，発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日（11 月発表希望であれば 8 月 10 日）までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

〉〉新入会員

◆ 水野 邦太郎（みずの くにたろう） 兵庫県 神戸女子大学
◆ 菊地 遼太郎（きくち りょうたろう）東京都 学習院大学大学院生

日本英語教育史学会 第 288 回 研究例会

日　　時： 2023 年 7 月 15 日（土）14:00～17:00
オンライン開催

自著を語る

柾木貴之著『国語教育と英語教育をつなぐ：「連携」の歴史，方法，実践』
（東京大学出版，2023 年 1 月）

柾木 貴之 氏（北海学園大学）

【著者から】 本書の目的は「国語教育と英語教育の連携」に関する歴史を記述した上で，歴史上の提言と実践を根拠に目的と方法を提案し，それに基づいて行った実践について考察を行うことである。新学習指導要領において，「連携」は新しい発想に見えるが，本当にそうなのだろうか。歴史を振り返ることで，「連携」の議論は明治期から現代まで連綿となされてきたことを示す。その上で，これまでに行われた実践の成果と課題について検討したい。

ミニ・シンポジウム

「英語教育における『ローマ字』を考える ―通時的・共時的な視点から」

話題提供者：河村和也（県立広島大学），久保野雅史（神奈川大学），
拝田清（和洋女子大学），堀由紀（和洋女子大学大学院生）

【話題提供者から】 本ミニ・シンポジウムでは，英語教育における「ローマ字」にまつわる諸問題を取り上げ，論点整理を行う。英語教員の中には国語科における「ローマ字」指導を英語学習の阻害要因とみなす者もいれば，「ローマ字」の知識が英語理解の助けになると考える教員もいる。そもそも，「ローマ字」とはラテン・アルファベットのことで，このラテン・アルファベットを用いて日本語を表記するのがいわゆる「ローマ字表記」であるのだが，この表記方法を単に「ローマ字」と呼ぶことも多く，このあたりも様々な混乱の要因となっているようである。話題提供者である拝田と堀は，「ローマ字」の歴史的変遷を概説する。拝田が歴史的な経緯を報告し，堀が現在の「ローマ字」の扱い方を国語教育との関係から報告する。河村はヘボン式と訓令式の特徴について報告をし，久保野は英語教育学において「ローマ字表記」をどう位置付けるかについて話題提供をする。フロアからの活発な意見・提案を期待している。

参 加 費： 無料
問 合 せ： 日本英語教育史学会例会担当（reikai@hiset.jp）

EDITOR'S BOX 今回は久しぶりに写真を掲載しましたが，誌面が少し華やかになった気がします。（若）

© 日本英語教育史学会会報編集部（秋田大学 若有研究室 wakaari@nifty.com）